

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成29	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	国立大学法人 京都大学野生動物研究センター							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	京都大学野生動物研究センター・教授・幸島司郎							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
京都大学、東京農業大学、東京工業大学、中部大学、大阪大学								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポストドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	5	3	8	7	1	24	
協力機関・協力研究者	11	27	11	10	1	60	
合計	16	30	19	17	2	84	0

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
京都大学野生動物研究センター	動物学	生物多様性研究のための屋久島実習における講師
京都大学霊長類研究所	動物学	ブラジルにおける野生動物保全研究

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究 交流 経費	国内旅費※1	6,217,850	
	外国旅費※1	4,228,623	
	謝金	53,568	
	備品・消耗品購入費	1,744,772	
	その他経費	711,326	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	543,861	
	計	13,500,000	
業務委託手数料	1,350,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	14,850,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

③ 日本側 の 旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		4,725	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)		日本→日本以外の渡航	
			日本以外→日本の渡航	
(単位:千円) ④ 相手国側 参加 研究 者の 旅費 の 総額	日本または相手国 →日本の渡航	(単位:千円) 左記のうち、 第三国 所属の 相手国 側	日本または相手国 →日本の渡航	
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航	
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航	
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航	
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航	
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明
該当なし	

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
4,997	6	833

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）		現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	ブラジルにおける野生動物保全研究	幸島司郎・京都大学野生動物研究センター・教授	○	○	○	○	○
R 2	インドにおける野生動物保全研究	幸島司郎・京都大学野生動物研究センター・教授	○	○	○	○	○
R 3	マレーシアにおける野生動物保全研究	幸島司郎・京都大学野生動物研究センター・教授	○	○	○	○	○
R 4	中国における野生動物保全研究	今井啓雄・京都大学霊長類研究所・准教授	○	○	○	○	○
R 5	インドネシアにおける野生動物保全研究	今井啓雄・京都大学霊長類研究所・准教授	○	○	○	○	○
R 6	新たな野生動物研究手法の開発と応用	平田聡・京都大学野生動物研究センター・教授	○	○	○	○	○

共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）

R1では、アマゾンマナティの野生復帰研究を継続した（本事業経費外、企業からの寄付金などによる）ほか、都市孤立林に生息するナマケモノ類や霊長類などの生態・行動研究を行った。野生放流したアマゾンマナティの行動モニタリングを各個体平均半年以上継続し、野生環境への適応を確認した。また、国立アマゾン研究所および地元環境NPO、日本やブラジルの企業との連携により、今後数年間は野生復帰事業を継続できる体制が構築された。R2のアジアゾウの研究では、野生アジアゾウの音声コミュニケーションに関する研究成果が国際学術雑誌論文および博士論文として出版され、京都大学に留学中のインド人大学院生が博士学位を取得した。また、インド人若手研究者による飼育下アジアゾウの毛に含まれるストレスホルモンに関する共同研究成果の口頭発表が、南アフリカで開催された国際野生動物内分泌学会で優秀発表賞を受賞した。R3では、熱帯雨林生態系のキーストーン種である絞め殺しイチジク類の種子散布にビントロングというジャコウネコ類が大きな役割を果たしていることを示した論文が国際学術雑誌に掲載された。また、本事業により日本でオランウータンの域外保全に関する共同研究を行ったマレーシアの大学院生が、その成果に基づいて博士学位（マレーシア国民大学）を取得した。R4では、コロブス類の甘味受容体が機能を失う方向に進化していること、マカク類の苦味受容体の多様性が他の霊長類と大きく異なることなどを見だし、論文を準備中である。R5では、野生ジャワルトンの採食生態、マレーヒヨケザルの姿勢と運動様式、コロブス亜科の霊長類における苦味感覚に関する研究成果が国際学術雑誌に掲載された。R6では、ドローン画像の解析によって動物各個体の位置関係を計測する方法を確立したほか、計測結果を機械学習を利用して解析する方法の開発を進めている。また、本州産ヒグマ化石から抽出した古DNAの塩基情報の解読に成功し、解読した塩基配列情報から、その系統や渡来ルートを推定した論文を準備中である。

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 第10回国際セミナー 「生物多様性と進化」	The 10th International Seminar on Biodiversity and Evolution: Wildlife Metagenomics : JSPS core to core program Core of Excellence for Tropical Biodiversity	日本・京都市・京都大学理学研究科セミナーハウス	2019年6月11日（1日間）
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業「第8回熱帯生物多様性国際ワークショップ：アマゾンにおける生物多様性保全」	JSPS The 8th International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation Wrap-up seminar of the SATREPS : Biodiversity conservation in Amazon based on a new concept of "Field Museum"	ブラジル・マナウス・国立アマゾン研究所	2019年5月30日～6月6日（8日間）
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業「第14回国際環境エンリッチメント会議：ゾウの福祉シンポジウム」	The 14th International Conference on Environmental Enrichment Elephant welfare: Perspectives from different cultural and working backgrounds JSPS core to core program Core of Excellence for Tropical Biodiversity	日本・京都市・京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール1	2019年6月23日（1日間）
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業 第11回国際セミナー：「生物多様性と進化」	The 11th International Seminar on Biodiversity and Evolution: Coexistence with Wildlife: JSPS core to core program Core of Excellence for Tropical Biodiversity	日本・京都市・境地大学理学研究科セミナーハウス	2019年12月2日（1日間）

<p>セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）</p>
<p>S-1：参加者人数37名（ブラジル、インド、マレーシア、中国、インドネシア、イギリスから各1名）。屋久島でのフィールドワーク実習と京都大学での分析実習後に行われた国際セミナー。実習での共同研究の成果発表と参加国若手研究者の研究発表に加え、メタゲノム解析を用いた先進的野生動物研究を行っている研究者による招待講演が行われた。研究発表や招待講演にもとづく活発な議論がなされ、共同研究の成果の共有と先進的研究手法への理解が進んだ。S-2：参加者人数延べ198人（インド、インドネシアから延べ各2名、マレーシアから延べ4名、日本から延べ60名、ブラジルから延べ132名）。ブラジルのマナウス市にある国立アマゾン研究所（INPA）の環境教育施設「科学の森」およびINPAが管理する保護林内にあるフィールドステーションにおいて開催した。これら2つの施設は、本事業の代表者である幸島が代表を務めるJST/JICAのSATREPS事業「フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全」によって、アマゾンにおけるフィールドミュージアムの中核施設として2019年5月に整備されたものである。これらの施設でアマゾンのフィールドミュージアムの活動を体験し、現場で議論するワークショップを開催したことにより、フィールドミュージアムに関する理解が深まり、各参加国におけるフィールドミュージアム実現への機運が高まった。S-3：参加者人数219名（インドから1名、中国から2名、イギリスから7名、日本から151名）。インドの参加研究者だけでなく、ゾウ飼育の先進地である米国の研究者にも基調講演をお願いし、共に議論することによって、飼育下での行動研究や動物福祉のレベルアップに貢献できた。S-4：参加者人数35名（ブラジル、インド、マレーシア、中国、インドネシア、イギリスから各1名）。屋久島と京都大学での実習後に行われた国際セミナー。実習での共同研究の成果発表と参加国若手研究者の発表に加え、野生動物と人間との共存に関する研究を行っている研究者による招待講演が行われた。研究発表や招待講演にもとづく活発な議論がなされ、共同研究の成果の共有と野生動物と人間との共存に関する研究への理解が進んだ。</p>
<p>③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。）</p>
<p>該当なし</p>
<p>④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。）</p>
<p>S-3 第14回国際環境エンリッチメント会議（ICEE2019）で主催した飼育ゾウの研究や福祉に関するシンポジウムに、インドなど相手国の参加研究者だけでなく、ゾウ飼育の先進地である米国の研究者（Deputy Conservation Manager, Oregon Zoo）にも基調講演をお願いし、共に議論することによって、日本側研究機関や相手国の参加研究者が行っている飼育下での行動研究や飼育環境・飼育法の改善による動物福祉のレベルアップに貢献できた。</p>

4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）							
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 ブラジル（国立アマゾン研究所）			1	1	1	3	2名（大学院生1、参加資格のない者・その他1）
2 インド（インド科学大学）				1		1	
3 マレーシア（マレーシア科学大学、NPO The MareCet Research Organization）	3			4		7	1名（大学院生1）
4 インドネシア（ボゴール農科大学）		2				2	
計	3	2	1	6	1	13	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 ブラジル（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
2 インド（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
3 マレーシア（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
4 中国（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
5 インドネシア（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
6 イギリス（京都大学野生動物研究センター）				2		2	2（大学院生）
7 アメリカ（第三国、京都大学野生動物研究センター）	1					1	
計	1	0	0	12	0	13	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
7：第14回国際環境エンリッチメント会議（ICEE 2019）で主催した飼育ゾウの研究や福祉に関するシンポジウム（S-3）の基調講演者として、ゾウ飼育の先進地である米国の研究者（Deputy Conservation Manager, Oregon Zoo）に参加していただくことで、本事業の飼育下での行動研究や飼育環境・飼育法の改善に貢献できた。							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元）	国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
国名（派遣元）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 ブラジル（京都大学野生動物研究センター）				2		2
2 インド（京都大学野生動物研究センター）				2		2
3 マレーシア（京都大学野生動物研究センター）				2		2
4 中国（京都大学野生動物研究センター）				2		2
5 インドネシア（京都大学野生動物研究センター）				2		2
6 イギリス（京都大学野生動物研究センター）				2		2
計	0	0	0	12	0	12

⑤日本→海外の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 ブラジル（国立アマゾン研究所）			1	1	1	3
2 インド（インド科学大学）				1		1
3 マレーシア（マレーシア科学大学、NPO The MareCet Research Organization）	3			4		7
4 インドネシア（ボゴール農科大学）		2				2
計	3	2	1	6	1	13

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	ブラジル
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：国立アマゾン研究所 英文：National Institute for Amazonian Research	
③コーディネーター所属 属部署・職名・氏名 (英文)	Laboratory for Aquatic Mammal Study, Professor, Vera Maria Ferreira DA SILVA
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	2	2	3		10	
協力機関・協力研究者				2		2	
合計	3	2	2	5	0	12	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	◎	Petrobras Ambiental	Mamíferos Aquaticos	2,262	2020/3/31	BRL	18
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Petrobras Ambiental	Mamíferos Aquaticos	540	2020/3/31	BRL	18
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		2,802			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	インド
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：インド科学大学 英文：Indian Institute of Science	
③コーディネーター所属 属部署・職名・氏名 (英文)	Center for Ecological Sciences, Professor, Raman SUKUMAR
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	1	3	4		9	
協力機関・協力研究者				1		1	
合計	1	1	3	5	0	10	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○	Vishveshwa 「a Jal Nigam Ltd., Government of Kamataka	Environmenta=mpact Monitoring	75	2020/3/31	INR	2
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	Vishveshwa 「a Jal Nigam Ltd., Government of Kamataka	Environmenta=mpact Monitoring	220	2020/3/31	INR	2
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		295			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	マレーシア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: マレーシア科学大学 英文: Science University of Malaysia	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	School of Biological Science, Universiti Sains Malaysia, Professor, Shahrul Anuar MOHD SAH
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: マレーシア・サバ大学 英文: University Malaysia Sabah	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1		2	3		6	
協力機関・協力研究者		1		4		5	
合計	1	1	2	7	0	11	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	◎	Universiti Sains Malaysia	The Behaviour and Habitat Quality of captive orangutan	712	2020/3/31	MYR	25
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Universiti Sains Malaysia	The Behaviour and Habitat Quality of captive orangutan	300	2020/3/31	MYR	25
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		1,012			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	中国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 中山大学 英文: Sun Yat-sen University	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	School of Life Sciences, Professor, ZHANG Peng
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2			5		7	
協力機関・協力研究者	1					1	
合計	3	0	0	5	0	8	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	National Natural Science Fund of China	Natural Science Fund	200	2020/3/31	CNY	16
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		200			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	インドネシア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: ポゴール農科大学 英文: Bogor Agricultural University	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Department of Biology, Lecturer, Bambang SURYOBROTO
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	4	1		6		11	
協力機関・協力研究者						0	
合計	4	1	0	6	0	11	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○	DIPA, Ministry of Research, Technology and Higher Education	Bilateral Exchange Joint Research Project JSPS/DG-RSTHE	108	2020/3/31	IDR	0.008
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	DIPA, Ministry of Research, Technology and Higher Education	Bilateral Exchange Joint Research Project JSPS/DG-RSTHE	280	2020/3/31	IDR	0.008
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		388			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	イギリス
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文:ケンブリッジ大学 英文: University of Cambridge	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Department of Zoology, Professor, Eske WILLERSLEV
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文:オックスフォード大学 英文: University of Oxford	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	2				4	
協力機関・協力研究者		4	2	5		11	
合計	2	6	2	5	0	15	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した:○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	Templeton World Charity Foundation	Diverse Intelligences	300	2020/3/31	GBP	137	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×							
(5)相手国側研究者の研究経費	×							
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×							
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		300				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。